

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 12月号 (NO32)

2012年12月10日(月)発行

【農暦】農的生活をスケッチし直したい！

○暦が残り1枚にならない内に、黒豆までの収穫を終わるべく進めて来た。だが、用事やイベントがある時は天気が良く、農作業をやろうとすると雨が降る。天気に恵まれても前の日に雨が降ってあれば小豆や黒豆の収穫作業は出来ない。乾燥されている事が前提条件の作業だからである。片付け、冬支度なども含め順次進めて来た積りであったが、いつの間にか失速していた。晴の続くタイミングを見ながら、円錐形で乾燥していた黒豆をクルリ棒でタタキ殻からとり出す作業を29日に行った。日没で中断となった。翌30日に残し作業継続した。小豆、黒豆の屋外作業だけは、目標の11月に終えた。残ってしまった選別作業は天候や昼夜が問われないので空き時間が使える。最初の忘年会の7日の前には終えたかった。だが、今も選別作業は続いている。

○農作業は、遅れてもやれば良いと言うものではない。収穫物の生育阻害、品質や収量にも影響する事が多い。また作業効率を著しく悪くする。何よりも大きな問題は、豊かであるはずの農的生活の質を落とす事である。ここ1-2年は遅れ作業が常態化している。ハウス破損、痛風発症などのアクシデントなどの想定外もあった。だが、甘い計画と弱い実践力が主因であると思っている。実践力アップに注力したいが、気力+身体能力=実践力に見合ったスタイルに農的生活をスケッチし直したいと思っている。今年出来なかった山歩きも農作業の身体能力維持も兼ね計画したい。来年の事を言って、鬼に笑われない程度には整理して置きたい。

○それにしても、農作業と用事やイベントと天候との相性が悪い。用事やイベントのある日は晴れる。農作業の予定日には雨が降る。やる気を試されている様な気がした。秋から冬にこんなに多い雨も可笑しい。気候異変は常態化し激しくなっている。

○COP18のドバイ会議で京都議定書を2020年まで延

期するとしたとのニュースを聞いた。気候異変がCO2による地球温暖化によるものだとしたら、何よりも優先して対策されねばと思う。震災・原発や経済危機などばかりで話題にもならない。16日投票の総選挙でも話題になっていない。プロパガンダの表層的な政策論議だけである。グローバルな課題が多く、インターナショナルな視点や取り組みが必要であると思うのだが、本質



＜クルリ棒で黒豆タタキ＞

乾燥した^{きや}莢からクルリ棒でタタいて黒豆を出し、選別する。

25日撮影

論議は俎上に載らない。異常気象が農作業遅れや作物の出来不出来の一因ではある内はよいが、農業全般の脅威になるのは遠くない様に思えてならない。今も日本海側では台風並みの風を伴った記録的な降雪が続いている。豪雨も、雷も、嵐も、竜巻も怖い。

○誰か来ないかと待ち望んでいる時は誰も来ない。頑張って農作業していると意外と訪問者が多い。黒豆のクルリ棒でタタク作業をしていると、クライנגルデン時にお世話になったUさんが赤カブの漬けものを持って来てくれた。遅れている作業を見て手伝ってくれた。また、私の作物の出来が悪いのを見越してか、ご近所のSさんから大量の薩摩芋を、Fさんから大根、白菜などを頂いた。自作の農作物を届けたいが、大概のものは栽培していて、あげる事が出来ない。一方的でない事が望ましいが、農産物の交流もいい。これも良い農的生活の一部だと思う。



＜八郷のまつり＞笠間へ行く途中に寄り道。野菜、手作り小物、笠間焼などとバンド演奏。畑の中の会場で23日撮影

【楽農】小豆、黒豆の収穫、選別作業続く！

＜ハウス＞；ヤーコンの種、タネ芋一部保管

＜畑A＞；トマト、茄子、ピーマンなど片付け。ヤーコンの一部収穫

＜畑B＞；小豆、黒豆、里芋、大野芋の収穫。小豆、黒豆の選別

【楽市】イベント交流・直売など

○グリーンジム本戸倶楽部（11月15－16日）

＜ピッコロファームの共同圃場＞

①□白茄子、ジャンボシシトウ、トマト片付け。

②、落花生は残り半分収穫（圃場で乾燥）

＊落花生をみどりの風に出荷後、小林東洋展へ行く。

＊詳細はブログの“ピッコロファーム楽農・楽市”に掲載。



○水戸自然農まつりに参加(11月24日)

農作業に参加出来ず、恐縮しながら参加した。子供からお年寄りまで多勢の参加で盛況であった。新規就農の若者もあり、人の輪の広がり、頼もしく楽しく交流が出来た。

＜水戸自然農まつり＞古代米の餅つき。美味しい食材がいっぱい。琴の演奏、直売など楽しい交流が出来た。24日撮影

【つぶやき=Tweet】“廃用萎縮”の教えに従え、知力、体力をブラッシュアップ！

○農暦のところで“弱い実践力が主因”など書いたが、この事の意味するところは知力・体力の衰えである。知力・体力の維持のことを考えていたら“廃用萎縮”と云う言葉を思い出した。

“人生は定年から面白い”などの著書がある大島清（＝京大名誉教授・医学博士）の本を読む

で知った言葉である。知力も体力也使わないと萎縮してしまう。瀬戸内寂聴がよくトキメキが大事と云う。トキメキは心の能動性となり、知力と体力の活性化に繋がるからだと思う。

○10 日（大阪で）、たまたま時間があり、フランス映画の「最強のふたり」を観た。首から下が麻痺で車椅子生活の大富豪が、口から出るのは、下品な下ネタや危ないブラックジョークばかりのスラム出身の黒人青年によって、生きる力を取り戻して行くと言う実話に基づいた物語である。楽しい映画であった。フランスで大ヒットを記録し今日本で上映中である。

○土楽たよりの9月号で触れた。社会学者の上野千鶴子が朝日新聞Be版の相談欄で18歳の青年の性の悩みに“熟女に土下座してでもお願いしなさい”と回答したとかで問題になっていると車中のラジオで聞いた（新聞は未確認）。彼女の著書には、いろいろと下ネタ（と云って良いか？）の記述が多い。市井の親父が使えばエロ親父と非難される。上野千鶴子も少し勇足があった様である。下ネタは本音（いや本能）に関わる情報である。扱いを間違えなければエネルギー？になる。黒人青年の下品な下ネタは本音だからこそ“力”を持ったのである。

○衰えて行く命が無意識に発言させるのか、老齡期の男性から川柳の“朝立ちや放尿までの命かな”風な話をよく聞く。蓮如（室町時代の浄土新宗の僧、本願寺8世）は80歳を過ぎても子供を設けている。植物は生存が危うくなると花を付け実（タネ）を付けると云う。大島清の“廃用萎縮”の教えに従え、知力、体力をブラッシュアップし農的生活の中で人生の花を咲かせたいものである。

【後記】年の瀬なのである。整理整頓、大掃除など思うが、どこまで出来るか？。少なくとも心の整理はしたい。フレッシュにと思う。

笠間に、k o g u r e農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜日本ジガー展＞主催；シェパード犬登録協会、後援；農水省とあった。大堀川散歩の途中で。最近イベントが多い。18日撮影

発行者；K o g u r e農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP;<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>